

モビリティウィーク&カーフリーデー 日本アワード2009

ふくい2009実行委員会 「まちづくり貢献賞」受賞！

福井市



「ピントン TV でおなじみの「ピントン」が子どもたちのバスの先生に」 畑 みゆきさん

FBC福井放送でおなじみのキャラクターも「バスの乗り方教室」の取材に来て、バスの乗り方を教えてもらい、早速子どもたちに教えなくなったのか、取材も忘れて教えていました。



カーフリーデーベストショット賞 畑さん受賞 / 関連記事 4～5ページ

活動報告

- 1月17日 臨時理事会
- 21日 福井 JC 寿例会出席 (内田)
- 31日 福井市まちづくり交歓会 2009
- 2月2日 第3回越前市地域公共交通会議
- 7日 都市化研究室報告書検討会
- 17日 ROBANEWS 編集会議、事務局会議
- 18日 福井市福鉄福武線サポート団体協議会理事会
- 19日 2月例会・理事会

今後の予定

- 2月22日(月) 福井市地域生活交通活性化会議
- 3月14日(日) 臨時理事会
- 19日(金) 3月例会・理事会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

偽装農家 神門善久

飛鳥新社 714円+税

コンパクトな都市と整形化された優良農地を形成するためには、市街化すべき農地を計画的に定めていく必要がある。しかし、地主にとって都合が良いのは転用したい時に転用できる制度である。農地税制、転用、交換等のルールは、上の2つの要求をうまくバランスさせてマネジメントしていかなければならない。日本の制度は地主の転用の便宜を重視しすぎているため、農業を真剣にやらない人が土地を持ち続けるというのが筆者の主張である。

食糧自給率の向上を重視しない筆者の考えに同調しない人もいるだろうが、土地問題を起こさず、魅力ある都市づくりに資する農地制度を考えている人にとって、「農家が利己的に考えればどうなるか」について基礎的な知識が得られる書である。

ただしページ数も限られているため、理論的背景の説明にやや物足りなさを感じる人もいるだろうから、そうした場合はぜひ同一筆者によって書かれた「日本の食と農」を併せて読むことをおすすめする。

東京会員 美濃部 雄人 Minobe Yujin

市民活動ステップアップ(リサーチ編)～現場の悩みから考える～に参加しました。



★ 概要：(特)ステップふくいが福井市の助成事業として事業を展開しました。
この取り組みは公共交通等といった、特定のテーマを設けて行われているのではなく、市民活動全般についての課題や悩みについて情報を共有し、課題解決の方法を検討するためにアンケートやワークショップを行い、さらにそれらのまとめとしてシンポジウムが開かれました。

★これまでの経緯：

- 1) 課題の抽出 ⇒ ①アンケート(8月)、②個別ヒアリング(9月)
- 2) 情報の共有と課題解決への議論⇒中間報告会とワークショップ(11月下旬)
- 3) まとめ ⇒ シンポジウム(2月中旬)

各団体から出てきた主な意見(課題)

資金に関して	事業の強みと弱み	情報発信	ネットワークについて
<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容に賛同してくれるスポンサー企業の開拓が必要 ・行政ではできない視点での事業提案をしているが予算交渉が厳しい ・団体としてやりたくない事業も委託事業として受けざるを得ない場合がある ・福井市の助成金に依存 ・法人を設立すれば補助金を受け取りやすいと思った ・スタッフ雇用の資金獲得が課題 ・運営を会費に頼れなくなった ・事務所家賃の工面が大変 ・資金の行き詰まりが課題 ・会費より寄付金がほとんど ・理事からの借入金がある 	<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期事業を持っている ・専用の事務所がある ・人(事務局)を雇っている ・設立時の志が続いている ・事務機器のある活動センターは利用できる ・収益事業を行っている <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 支援センターの役割が果たせていない ・毎年の事業は新味を欠く ・活動拠点には無料駐車場が不可欠 ・公民館が活動場所として自由に使えるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ会議等は月 1 回で他にメーリングリストを活用 ・PR 等の行き詰まりを感じている ・メンバー同士で情報を補完しながら企画運営等を行っている ・情報運営力だった専業主婦層の参加が減った ・人への結果はすぐには出ないし、成果も伝わりにくい ・運営参加でなく情報やサービスを受けたい人が増えた ・理事会の前に常任理事会を開き、情報の調整を図る ・活動を通して社会のマナーやルールを伝えたい ・ニュースを発行している 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員は当日や準備に協力してくれるが、企画運営にも参加してほしい ・県や市の支援センター職員に現場の話が通じなく、相談できるスタッフがいない ・これまでの事業とは異なった企画も必要 ・役員の交代に伴い事業の再構築と人材の入れ替えがポイント ・柱事業を着実に実行し、ネットワークを広げている ・事業に関係するNPOが年1回程度集まって話をする場が必要 ・若者が持つ外からの見方は重要

このような意見を踏まえ、ワークショップでは意見に賛同できるもの、印象的なものをピックアップし、その内容を重点的に議論しました。そのまとめが右図です。

またシンポジウムでは40数名の人が集まり、福井市以外の先進的な取り組みや、課題解決につながる内容について意見交換が行われました。(都合により参加できず)

ROBAにおいても参考・共感できる課題がたくさんありました。十分とは言えないかも知れませんが、ROBAは人と資金とネットワークがしっかりある団体だと実感しました。

この実感が無くならないように…。

(報告 畑みゆき)

内部環境



人材に関しては、一言で言えば「燃え尽き症候群」にかかりかけている人が多い。一所懸命に活動をすればするほど、中核メンバーが少なくなり、新しい活動者が入りにくい壁ができ、参加者が受け身になる。それを改善するためにさらに頑張って、やがて燃え尽きてしまうという悪循環が出てきているようだ。ここで提案したい解決策はズバリ、中核メンバーが常に次世代に引き継ぐ準備をすることである。そのためには、現場担当者に思い切って権限委譲するぐらいの度量を持つべきである。組織は生き物であり、そのための新陳代謝は不可欠であろう。



次にカネだが、果たして本当に喉から手が出るぐらい資金を必要としているのだろうか。何が何でも資金が欲しいのであれば、寄付を募ったり自主事業を積極的に展開したり、行政の委託事業や助成金を申請したりと資金獲得の手段は考えられる。しかし、「お金は欲しいが、口出しされるのはイヤ」というのはあまりにも都合のいい話であり、特に昨今の厳しい経済状況を考えれば、ますます資金獲得に苦労を伴うことは当然のことである。もちろんミッション達成に関係しない事業をすることはないが、もう少し資金獲得に貪欲になる必要もある。「カネがないから」という言い訳ではなく、カネについてのシビアな議論をしていくことも大切にしてほしい。

資金を効果的に確保するためには、財務戦略ともいえるべき資金計画が必要となり、そのための専門家が担う役割も、重要となってくる。例えばマネジメントに関するコンサルティングや、税理士等による経理の導入も不可欠となってくる。



事業という部分では、その事業を展開する上で拠点をを持つことは重要である。拠点があればメンバーが集えてコミュニケーションが取りやすくなり、情報の受発信ができるようになり、何よりもミッションを具現化する1つにもなる。そして、事業内容は「不易流行」である。何をえて何を変えないのか、組織内での濃密な議論から始める必要がある。

内部と外部をつなぐ環境



情報に関しては、PR力不足を課題として挙げる団体が多いが、本当に受け手の立場に立った情報提供を行っているだろうか。情報の決定権は受け手にあることを忘れてはならない。どんなに思い込めて情報を伝えても、その情報をどのように受け取るかは、受け手次第である。そのためには受け手が、受け取りやすい内容に「加工」していくと同時に、その人が受け取りたいと思う時に、タイミングよく情報を届けることが必要である。HPを作って、チラシを作って、それで満足してはいないだろうか、常に確認して欲しい。

外部環境



外部環境だが、団体自ら環境を変えることは難しい。しかし、今のような外部環境であるのかアンテナを張ることは容易である。行政や企業や他の市民活動団体と連携したいという希望があれば、より相手のことを理解するための努力が必要である。あなたの団体と同じように行政や企業、他の団体も社会をよりよくするための構成員であることを忘れてはならない。

「もりた夢駅 冬物語」熱気ムンムン！ 100211



森田地区文化委員会と仁愛短期大学の学生でJR森田駅利用促進のためのイベントを行ないました。たくさんの人に来ていただき変集長はうれしい悲鳴をあげていました。

【**絵手紙体験**】森田公民館の自主グループ「絵手紙」の指導

【**短大生によるアニメ上映**】森田駅駅長の退職を軸にとてもほのぼのとしたアニメでした。まだ、進化途中のようで完成したら森田駅でまた上映会を計画したいですね。

【**小野福井駅長**】今回のイベントについてはJRの協力があって実現しました。現在、福井市を通じて森田駅構内を展示スペースとして改築をお願いしていますが、住民の熱意は十分に伝わったと思います。福井駅長が来られるのはサプライズでした。当日は、福井駅長より子供たちにプレゼント（鉛筆、電車のシールなど）もありました。

【**駅舎でコンサート**】森田地区文化祭でも演奏していただきましたが、地元にある音楽科短大生が演奏を通して住民と交流できるというのは素晴らしいと思います。コンサートの時間帯は身動きできないくらい人・人・人。150人くらいいたのでは？ちなみに、この音楽科生徒を指導している教授は森田在住です。

【**インスタレーション**】森田地区文化委員会が考えた屋外インスタレーションです。地元の企業からいただいた布を使って表現してみました。

【**イルミネーション点灯式**】小学生にスイッチを押してもらいイルミネーションを点灯しました。森田地区住民の人口と同じ数の12,000個のLEDの電球が使っており、2月中旬まで17:00～22:00の時間帯に点灯します。近くまでお越しの祭は是非お立ち寄りください。

文 / 林照

写真 / 鳥居・吉田（森田公民館）・東（森田地区文化委員会）
林照



MW&CFD2009ふくい実行委員会が「まちづくり貢献賞」を受賞！

9月16日から22日まで「モビリティウィーク&カーフリーデーふくい」を開催した、「MW&CFD2009ふくい実行委員会」が、「MW&CFD日本アワード2009」において、全国の参加9都市の中で、大賞ともいえる「まちづくり貢献賞」を受賞しました。

受賞理由：モビリティウィーク&カーフリーデーふくい2009 実行委員会は、NPOでありながら、他NPO、市民団体、交通事業者等企業と協力し、モビリティウィーク週間において、「徒歩の日」「自転車の日」「バスの日」など毎日テーマをもうけ、クルマに頼らない交通行動やエコライフの啓発活動に努め、各種取り組みを行ない、沢山の市民の参加が得られた。とくに、今年は、FBC福井放送と連携して環境省CO2削減イベント広報支援事業に応募し、MW&CFDのCMを作成・放映したことや、中高生へ「クルマと公共交通のかしこい使い方」作文コンクールを実施するなど、幅広く啓発活動に貢献したことを高く評価した。

MW&CFDもふくいでの開催は3年目を迎え、とりわけ今年は内容が充実しており、入賞をひそかに狙っていたとはいえ、このような高い評価を得ることができたのは、実行委員会に参加し、それぞれの役割に責任を持って実行していただきイベントを盛り上げていただいた各委員の皆さんのおかげだと思っています。

また、その中心となって委員として事務局を運営したROBAの熱意のある活動の賜物だと思います。

本当におめでとうございました。

モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2009 受賞者決定

カーフリーデージャパンは、この度、モビリティウィーク&カーフリーデー2009におきまして、移動に関する様々な問題を考える機会を市民へ提供し、新しい都市交通政策の展開を進展させるため、「モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2009」として、まちづくり貢献賞、イベント・プロジェクト賞、市民向けアピール賞、カーフリーデーベストショット賞を設け、以下の通り決定致しました。

モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2009

目的

- 各団体が行うモビリティウィーク&カーフリーデーについての取組を講えます
- 各団体の取組の評価を行うことで、今後の取組への更なる意欲昂進に期待します
- 日本におけるモビリティウィーク&カーフリーデーの質的向上をねらいます
- 他団体や一般市民の関心を集める機会とします

受賞団体

1. まちづくり貢献賞

・モビリティウィーク&カーフリーデーふくい2009実行委員会

2. イベント・プロジェクト賞

・なごやカーフリーデー協議会実行委員会

3. 市民向けアピール賞

・松本市ノーマイカーデー推進市民会議

4. カーフリーデーベストショット賞

別紙。

審査委員

委員長 太田勝敏 (東洋大学国際地域学部教授、東京大学名誉教授)

委員 上岡直見 (環境自治体会議 環境政策研究所)

委員 望月真一 (EMW日本担当コーディネーター)



2009.12.25
カーフリーデージャパン
〒102-0085 東京都千代田区六番町6-20
グランドメゾン六番町304

審査結果について

審査会は、平成21年12月25日に、カーフリーデージャパン事務所内にて行われました。
「モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2009」各賞の受賞理由、講評の概要は、以下の通りです。

1. まちづくり貢献賞

受賞：モビリティウィーク&カーフリーデーふくい2009 実行委員会

受賞理由：

モビリティウィーク&カーフリーデーふくい2009 実行委員会は、NPO でありながら、他 NPO、市民団体、交通事業者等企業と協力し、モビリティウィーク一週間において、「徒歩の日」「自転車の日」「バスの日」など毎日テーマをもうけ、クルマに頼らない交通行動やエコライフの啓発活動に努め、各種取組みを行ない、沢山の市民の参加が得られた。特に、今年は、FBC 福井放送と連携して環境省 CO2 削減イベント広報支援事業に応募し、MW&CFD の CM を作成・放映したことや、中高生へ「クルマと公共交通のかしこい使い方」作文コンクールを実施するなど、幅広く啓発活動に貢献したことを高く評価した。

他応募団体（市）：名古屋市、那覇市

講評：名古屋市、那覇市両市ともに、今年も実施内容が高く評価されたが、行政としてより一層、都市交通政策の展開に結びつけてもらいたいという期待を込めて、今回、対象外とした。モビリティウィーク&カーフリーデーが総合的な都市政策の展開に有意義に活用されることを、来年度以降期待したい。

また、カーフリーデーベストショット賞には、ふくいから応募した5点の中から、畑みゆきさんが撮影した「バスの乗り方教室」の「ピントンが子供たちのバスの先生に」がみごと初入賞いたしました。ねらったショットがみごと審査員の心に響いたようです。
(写真は表紙を参照してください)

FBCからお祝い電報をいただきました

お祝い

お届け台紙名『グレース』

お届け日 02月16日午前

福井県 福井市 種池町 1-1905-3
NPO法人ふくい路面電車とまちづくりの会
内田 桂嗣 様

「まちづくり貢献賞」の受賞誠におめでとうございます。
今後ともこれを励みに、この取組を続けていただけるよう期待しております。

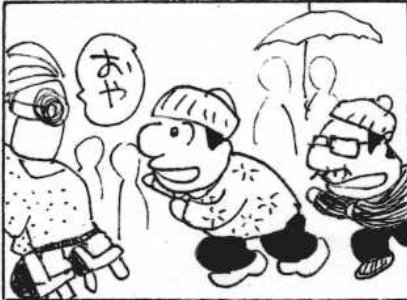
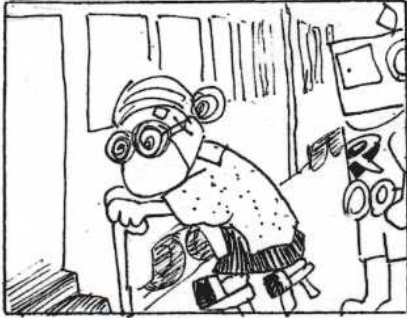
福井放送株式会社

代表取締役社長 小藤 幸男

新年度も、ホジロバ交通のまちづくりに向けた積極的な取り組みに、ますます力が入りますね。

報告：MW&CFDローカルコーディネーター 林 博

快速!! 哲学
路面ライダー



作 / 漆寄 耕次



木質ペレットは地球を救う！



チョコレートが嫌いになる日 2月14日(日) 低炭素社会づくりセミナー(主催/エコプランふくい)に参加してきました。

木質ペレットは県内でも生産が可能な、カーボンニュートラル(CO₂排出量ゼロ)の燃料。おが屑やのこぎり屑などの製材廃材などを原料にしており、80~100度で圧縮すると木に含まれているニグリンが融解し接着剤を用いなくてもペレット状になるらしい。

専用ストーブで自動運転が可能なので、最近では学校・公民館を中心に普及し始めている。しかし、ストーブだけでは需要が冬場に限定されてしまい、年間を通して使ってもらえる木質ペレットを使ったボイラーの開発が課題となっている。

詳細は <http://www.n-wood.co.jp/ver4/>
<http://www.jasty.jp/>

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「先日、韓国映画『母なる証明』を見てきました。

母が子を思う気持ち恐るべし！」

内田(発行責任者)

「交通基本法の議論も進んでいます。国でも人の移動について考えはじめました」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>